

当日のマルイカ仕掛け

●Tackle Guide

相模湾のマルイカスツテは3センチ前後が主流のようだ。しかし、ビギナーが使っていた仕掛けは5~6センチのスツテで組まれた市販仕掛けで、それでもマルイカは釣れた。船長も言っていたが、従来から使われている5~6センチのスツテで組まれた仕掛けでも釣れないわけではない。

たので池上さんに見てもらったが、それでも硬すぎてイカがスツテに触ったかどうかは分からないかもしれないと言った。言い換えると、池上さんの愛竿はそれほど感度が高いということだ。

次に仕掛けだが、池上さんは3センチ前後のスツテ5本で組んだ直結仕掛けを使っている。3センチ前後のスツテは今や相模湾のマルイカ釣りでは主流らしく、仕掛けを自作してきている釣りは皆3センチ前後のスツテを使っている。

また、池上さんの仕掛けはスツテ間と捨て糸は1メートルとごく一般的な仕様。だとすれば、あとは釣り方だ。池上さんは、オモリが着底するとまずタタキを入れる。しかし、その回数は3~4回程度と思ったより少ない。海中で道糸や幹糸がたわんでいることを考えれば、タタキ回数の半分もスツテには伝わっていないだろう。そのことを尋ねると、

「スツテはちよこつとだけ動いてくれればいいんです」と答えてくれた。

そしてタタキの後、じつと竿先を見つめる。極細の竿先に、よく見ていないと分からないほどの動きがあるらしい。それでビシッと合わせてリールを巻き始めると、マルイカが釣れている。隣で見ている人もよく分からないほどの竿先

▼愛竿は櫻井釣具のマルイカ専用ロッド「金剛激まるいカ170深」



▼池上さんのスツテは3センチのシンキングタイプ



「だから竿の感度が重要なんです」

もう返す言葉はなかった。釣り座に戻り、20センチくらい仕掛けをたるませるといとも簡単に釣られてきたマルイカ。しかしアタリは分らず、なんだか恨めしく思えた。葉山沖で14時を過ぎたころ、船長が沖揚げりをアナウンスする。

釣果は15~25センチのマルイカが、ビギナーの2杯から池上さんの30杯まで。この日はムギイカ

の動きをとらえて合わせるその技は、神がかって見えた。

抱かせるテクニク

釣り座に戻り、池上さんの釣り方を実践してみる。タタキを入れた後、竿先に全集中していると、グンといった感触はもとより、イカがスツテに触る「フツ」とか「スツ」といった微妙な感触が分かるようになってきた。

しかし、それで合わせても乗らない。何度も同じ状況を繰り返し、再び池上さんにそのことを訴えてみた。

「ほんの少しだけ、仕掛けをたるませるんですよ。ゼロテ

ンよりほんの少しだけですけれど、そのほうがイカの抱きがいいんです。ゼロテンだと、イカがスツテに触ったときにテンションを感じちゃって抱きつかないんです。だから少しだけ仕掛けをたるませてやる。そうすると、イカがテンションを感じないのでちゃんと抱きつくんですよ」

しかし、仕掛けをゼロテンよりたるませたら、イカが触ったかどうか分りにくくなりはしないだろうか？ そう尋ねると池上さんはこう答えた。



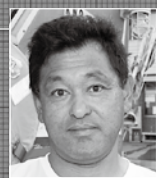
▲胴長25センチ級のまずまずサイズ

は少なく船中で5杯だった。気分屋のイカばかりはその日にポイントへ行ってみないと分からないが、今シーズンの愛正丸のマルイカの最高記録は80杯。この日も好反応があらからこちらで見られたので、これからますます楽しめるだろう。

そして、相模湾のマルイカ釣りは、一度体験したらハマること間違いなしだ。

●船宿information

三浦半島葉山あぶすり港
愛正丸
☎046-875-8614
(詳細は巻末の情報欄参照)



米山信一郎船長

▶料金=マルイカ乗合一人9500円(氷別)
▶備考=予約乗合、7時出船。ほかアジ五日、根魚五日へも出船



活性の高い群れに当たるとダブルもある

相模湾のマルイカにムギイカが交じり始めたこと編集部から一報が入る。とつさに、このところハマっている大吟醸が脳裏をよぎった。どちらも刺身にすると甲乙つけがたいおいしさを、一挙両得の感がある。

さっそくしばらく休眠していたマルイカスツテたちをたたき起こし、三浦半島葉山あぶすり港・愛正丸の大船長に電話で教えてもらったとおりに直結仕掛けを組んだ。このスツテたちがうまいマルイカやムギイカを連れてきてくれるはずだ。

取材日は5月下旬の週末。

港に5時前に到着すると、無料駐車場はすでに満車。まさに大盛況だ。

私が乗り込んだ第十一愛正丸は定刻より早い6時35分に出船し、約20分後に亀城根周りでスローダウン。14名の釣りしたい衝動をおさめるかのようなしばしのリサーチのあと、7時15分に米山信一郎船長から開始がアナウンスされた。

「はい、いいですよ。水深は32メートルです。いい反応が出てますから、やってみてください」

直後に右ミヨシの杉山さんが合わせを入れリールを巻き始めた。潮鉄砲を噴射しながら

竿の感度が物をいう

5分後に仕掛けを上げて10分後に再開すると、右胴の間の古川さんと杉山さんにマルイカ。3分後に仕掛けを上げて6分後に再開すると、杉山さんと右胴の間の谷口さん、左3番の菅野さんにマルイカが釣れる。

「いい反応があるんですけど、仕掛けを下ろすと散っちゃうんですよ。で、仕掛けを上げるとまた反応が戻ってくるし……」と船長もしばらく苦心の操船が続いた。

続いて、左トモ2番の池上さんが3杯目、4杯目と連釣するも、その3分後にはまた仕掛けを上げるようにとアナウンスされた。

「釣れたらオデコとかの人に全部あげちゃうんですよ」と笑うが、それだけマルイカ釣りの腕を磨くことに情熱を燃やしているということだろう。

隣に座って見ていると、池上さんはほぼ1投入1杯の好

ゼロテンよりもたるませる!!
名手に学ぶマルイカ新境地

三浦半島葉山あぶすり港発・葉山・城ヶ島沖 フィッシングライター・丸山利明 Toshiaki Maruyama

知得! 竿置きで釣果アップ!

見ていると、ビギナーが釣れたイカをバラしているのは取り込みで竿を置くときが多いようだ。V字型のチョイ置きを持っていないために、置いた竿が安定せず気を取られたとき仕掛けが下がってしまい、せっかく釣れたイカがカンナから外れてしまう。竿やリールをそろえるのも楽しいが、まず真ッ先に購入を考えるべきなのは竿置きかもしれない。



▲チョイ置きと竿立て機能を備えたタイプがおすすめ

ペースでマルイカを釣り上げている。そこで、池上さんに極意を聞いてみた。

まず、一番重要なポイントが竿の感度。私もメーカーが高感度を誇る竿を持参してい